

歳出入構造の地域比較と シミュレーション

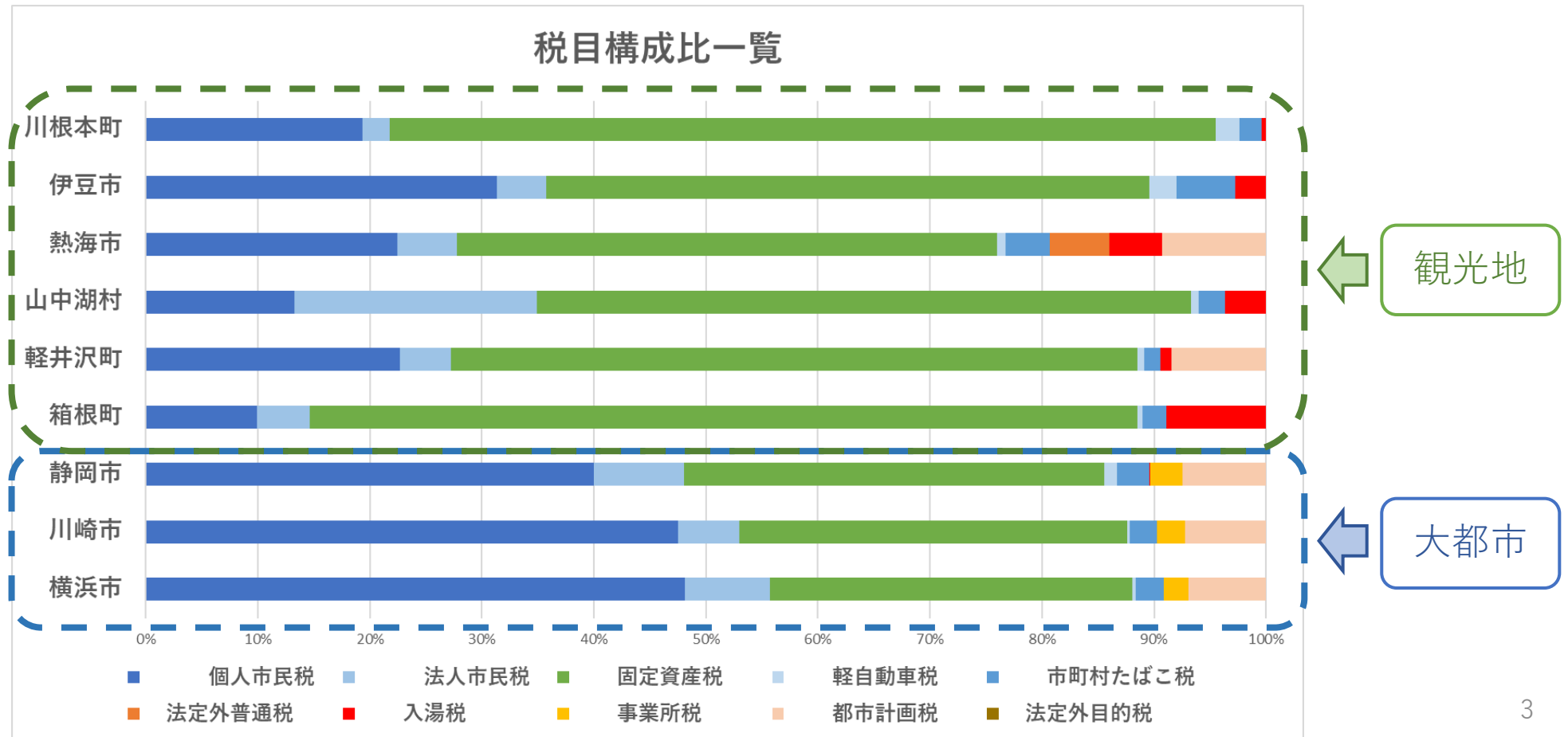
チームロク
2024/3/26

もくじ

1. 観光20都市のデータ比較による特徴
 - (1) 歳入編
 - (2) 歳出編
2. 箱根町の個別状況
 - (1) 歳入編
 - (2) 歳出編
3. もしも～が軽井沢並だったら？
 - (1) 歳入編
 - (2) 歳出編
4. まとめ

仮説 1 観光都市の税目構成

- 観光都市の税目構成には特徴（傾向）がある。



1. 観光20都市データ比較による特徴分析

(1) 歳入編

観光都市全体のデータ分析によって、観光業と行政歳入の一般的な傾向を探る。

- ①一人当たり固定資産税／個人市民税VS一人当たり観光客数
- ②一人当たり固定資産税VS一人当たり観光客数
- ③一人当たり市民税VS一人当たり観光客数
- ④一人当たり個人市民税VS地方債

分析対象の観光20都市とは

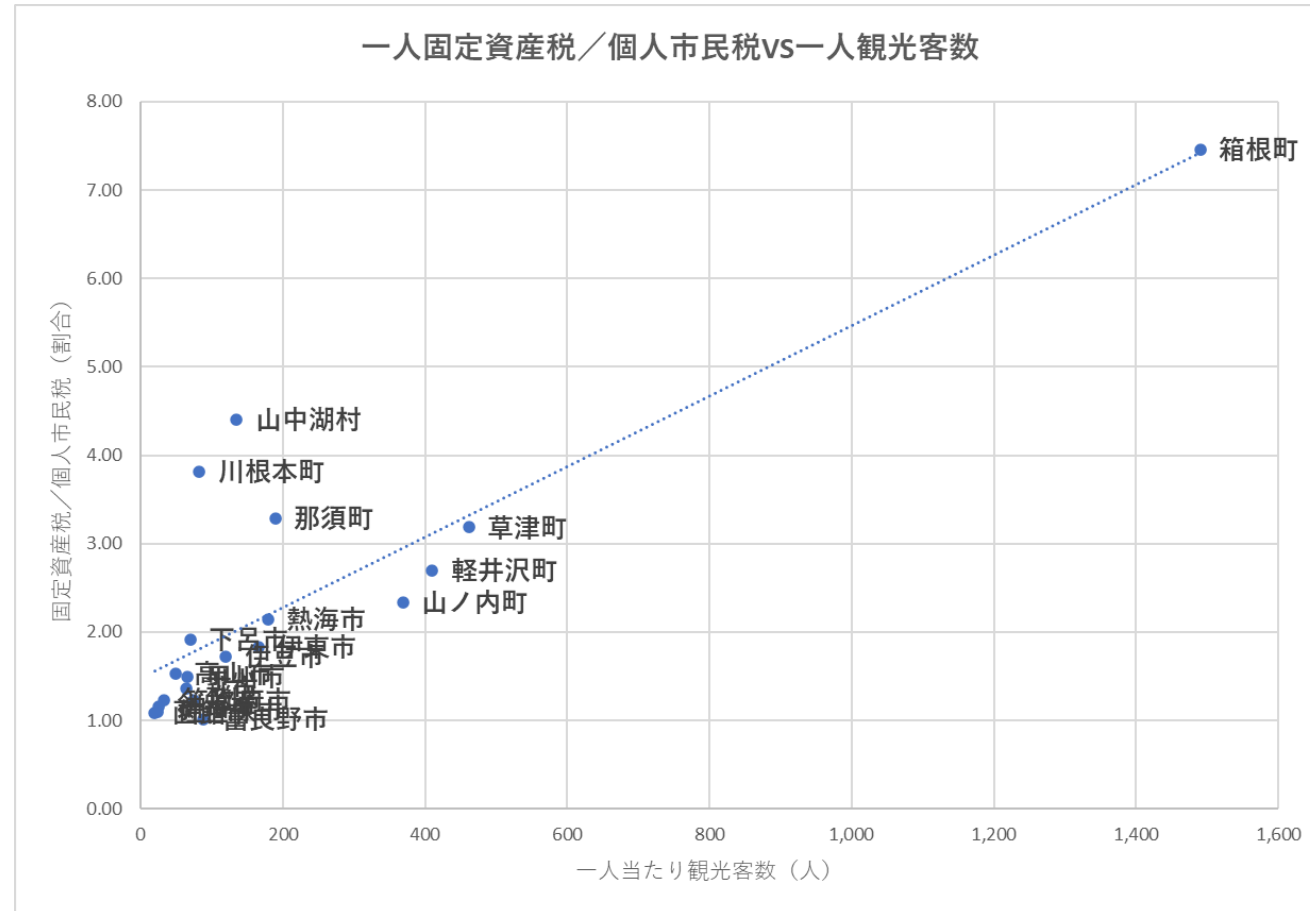
- 主なターゲットである箱根町を含む観光地と呼ばれている20都市を分析対象としている。
- これは先行研究である価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）の「地域を強く。地域経済の分析セミナー」で定義されている一般的な観光都市19都市＋当グループで調査対象としている静岡県川根本町を加えたものである。

観光20都市所在地

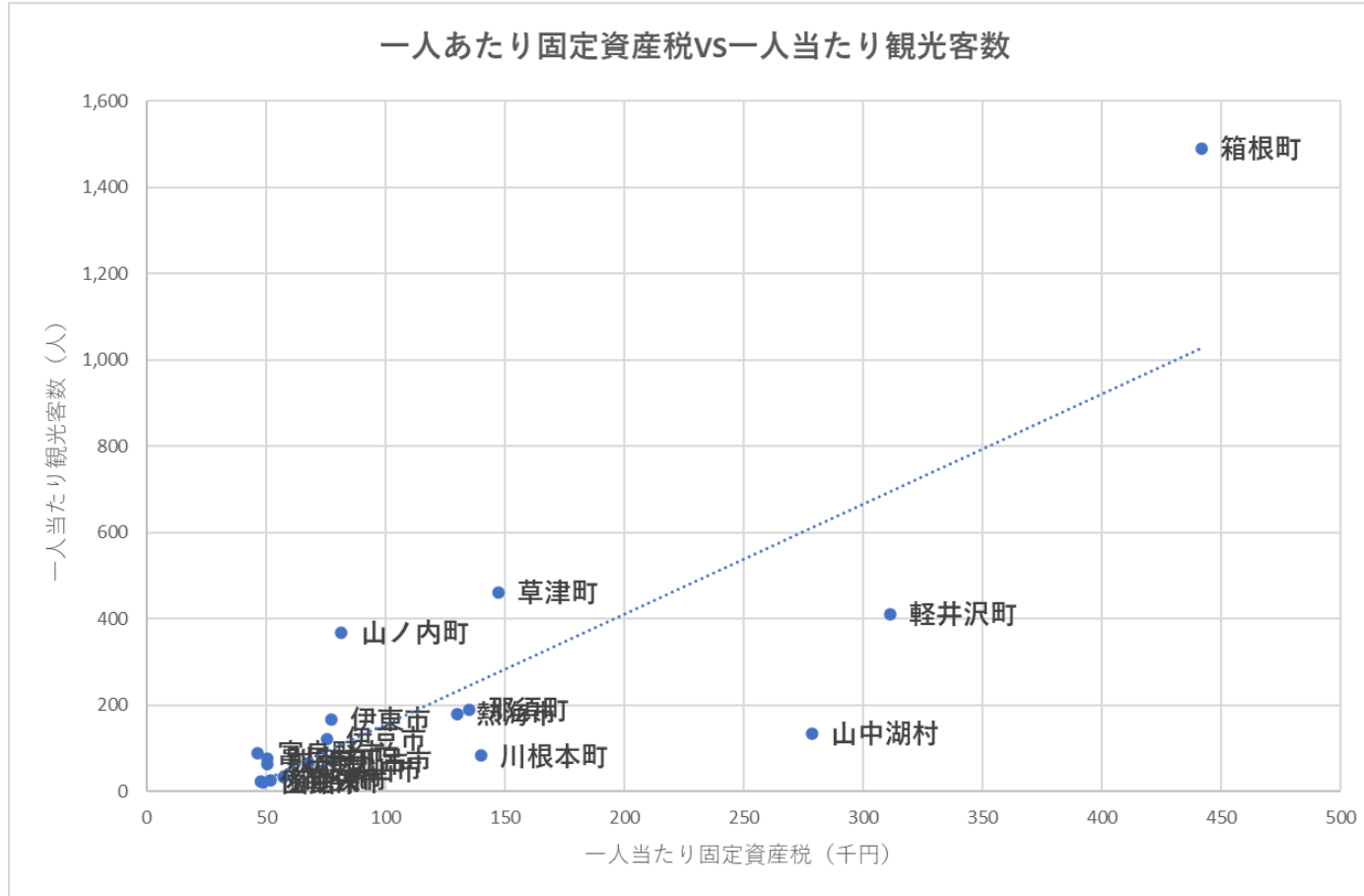
北海道 函館市
北海道 釧路市
北海道 富良野市
栃木県 那須町
群馬県 草津町
神奈川県 箱根町
山梨県 笛吹市
山梨県 甲州市
山梨県 山中湖村
長野県 軽井沢町
長野県 山ノ内町
岐阜県 高山市
岐阜県 下呂市
静岡県 熱海市
静岡県 伊東市
静岡県 伊豆市
静岡県 川根本町
山口県 萩市
長崎県 佐世保市
大分県 別府市



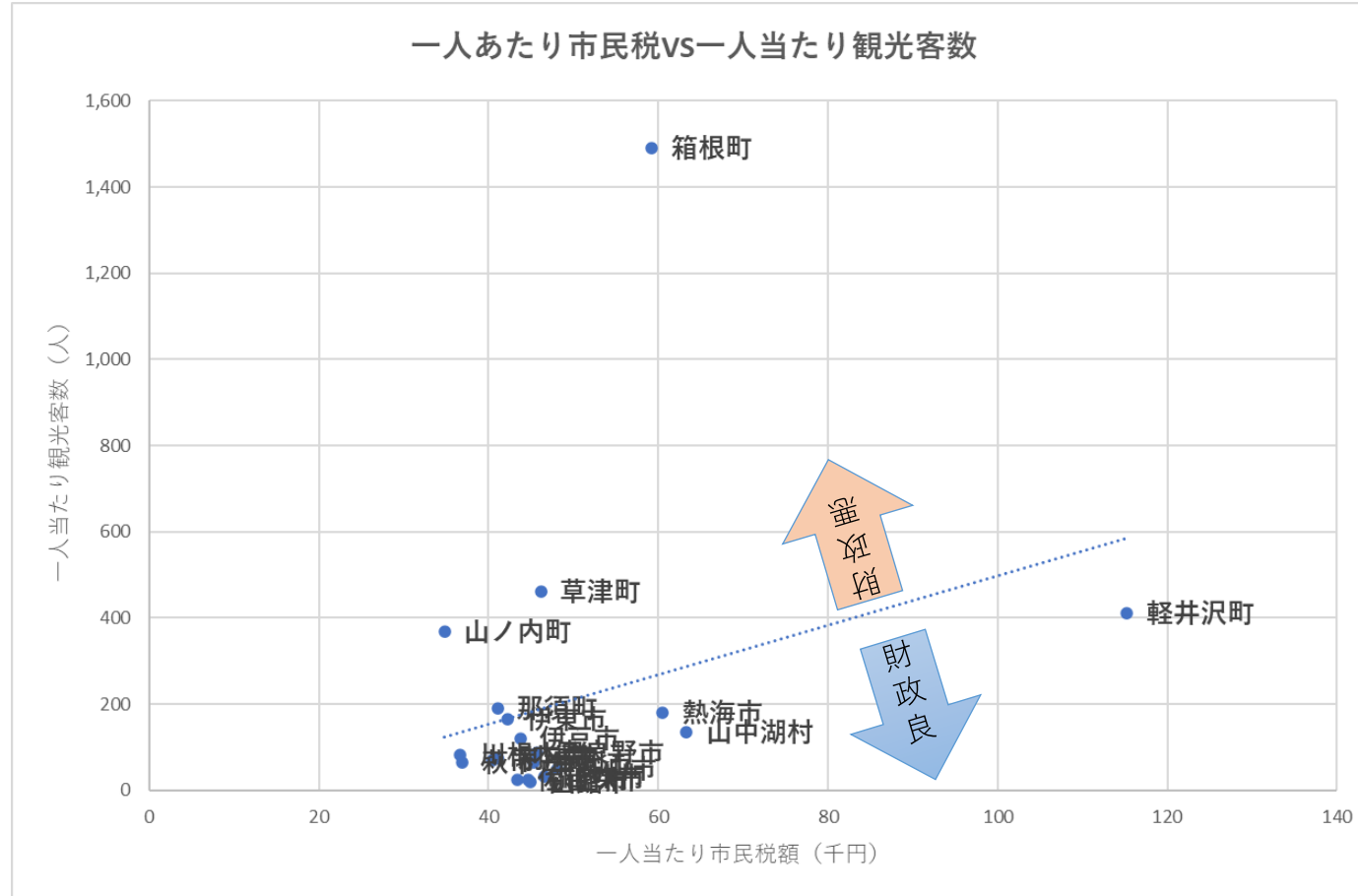
(1) ①一人当たり固定資産税／個人市民税 VS一人当たり観光客数



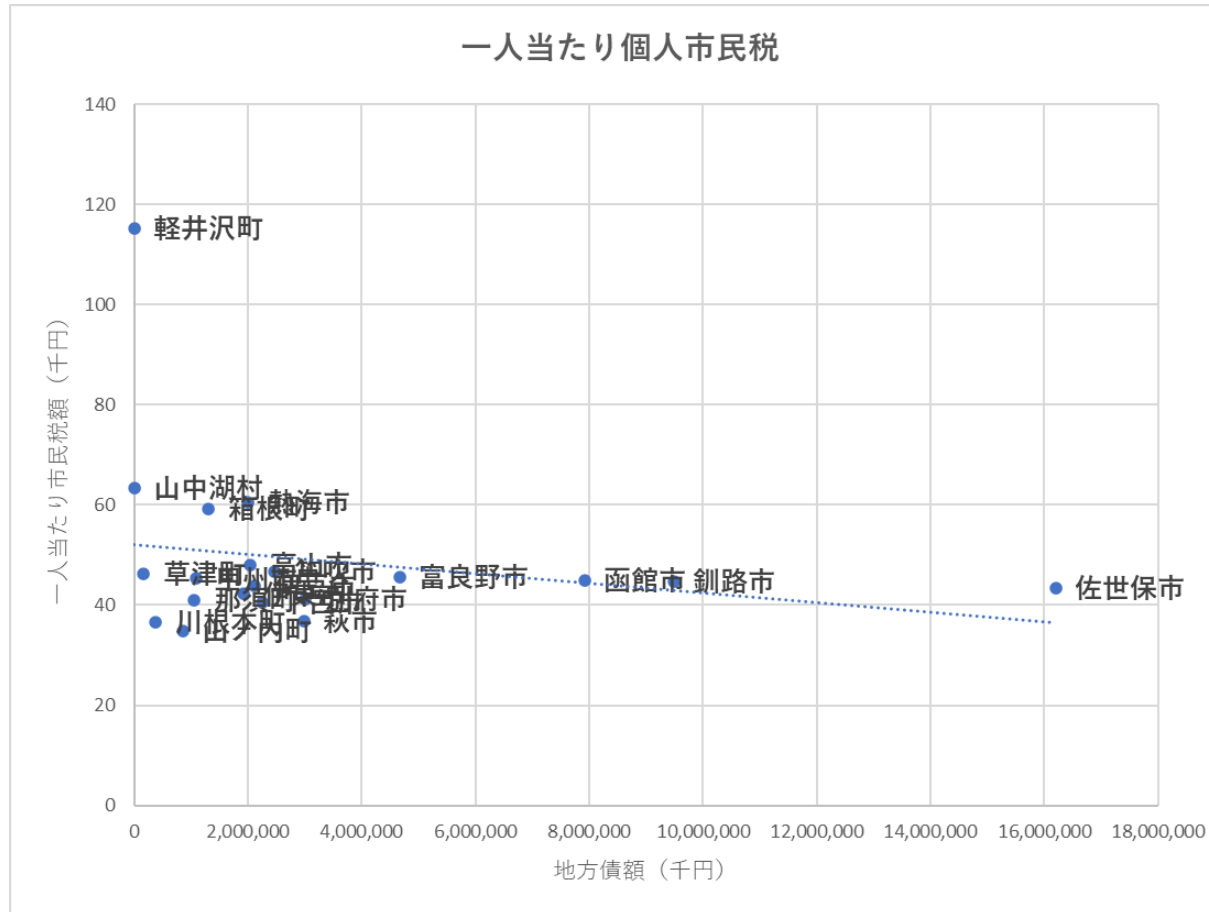
(1) ②一人当たり固定資産税 VS一人当たり観光客数



(1) ③一人当たり市民税 VS一人当たり観光客数



(1) ④一人当たり個人市民税 VS地方債

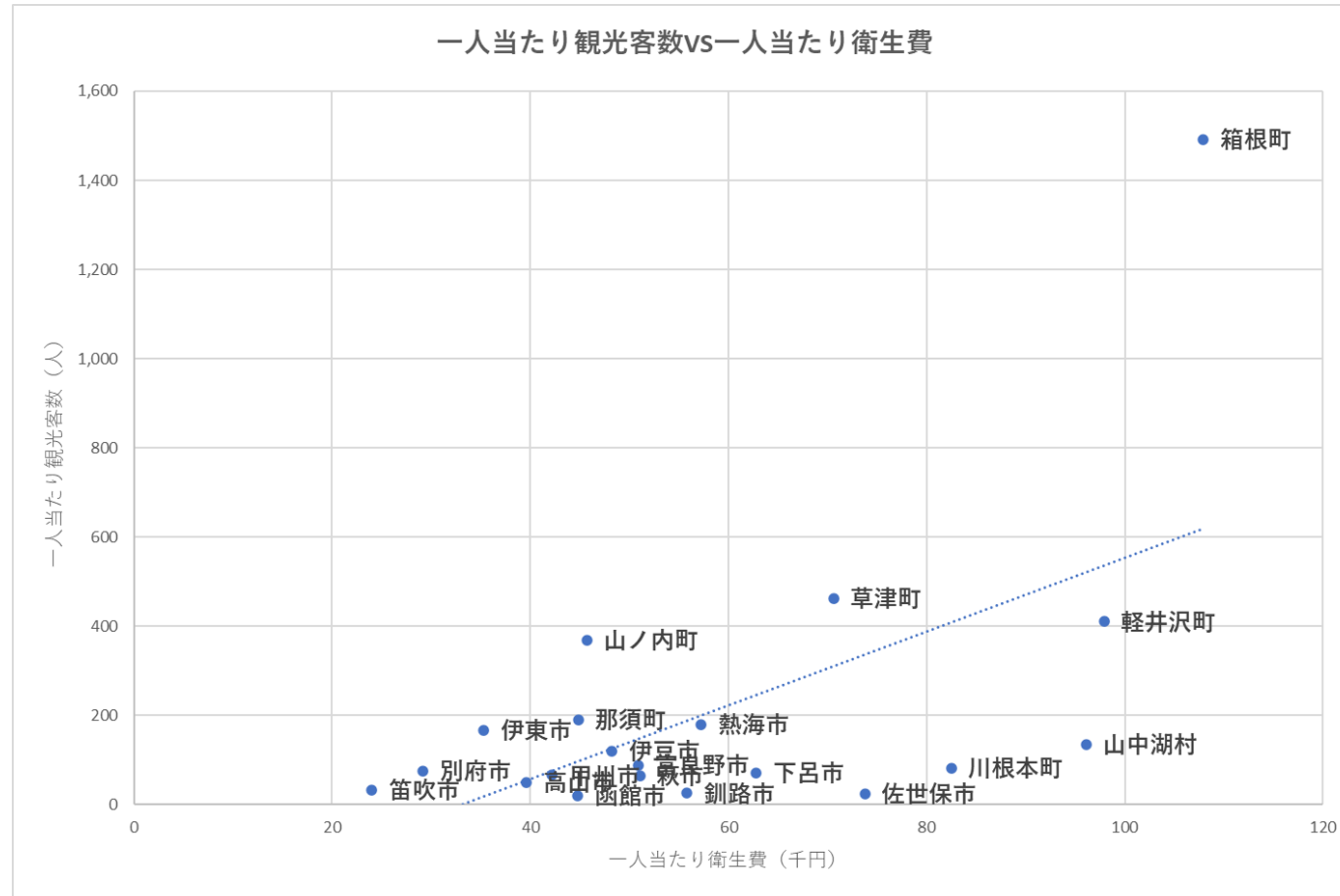


1. 観光20都市データ比較による一般傾向

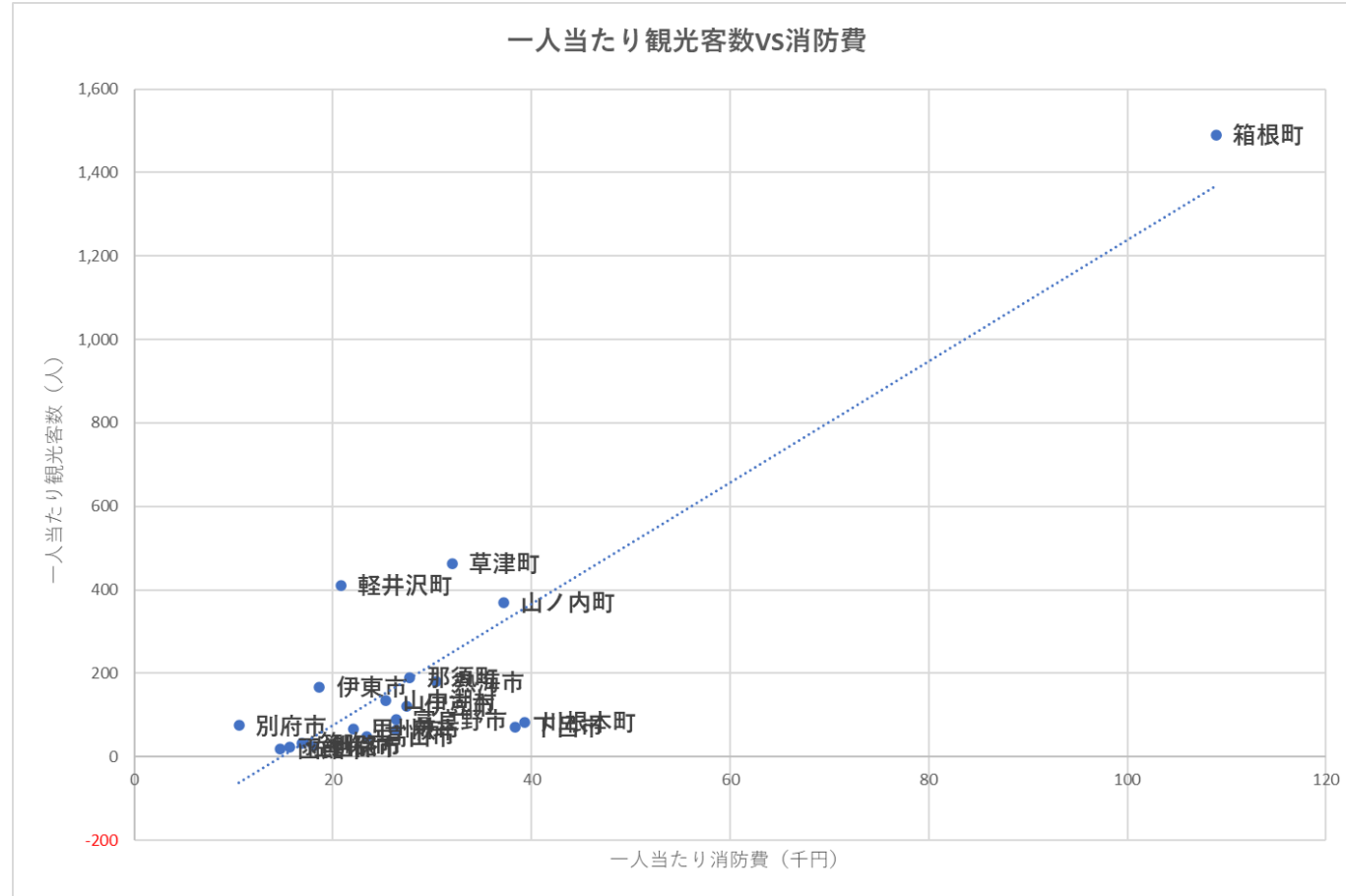
(2) 歳出編

- ①一人当たり観光客数VS衛生費
- ②一人当たり観光客数VS消防費

(2) ①一人当たり観光客数VS衛生費



(2) ②一人当たり観光客数VS消防費



1. 観光20都市データ比較による一般傾向 わかったこと

(1) 歳入編

仮説のとおり、観光都市には税収構造に傾向があった。

- 観光都市では観光客数が多いほど、固定資産税の歳入率が高い。
- 観光都市では個人市民税の比率が高いほど財政事情がよい。

(2) 歳出編

- 観光都市では観光客数が多いほど歳出が増え、財政事情が悪い。

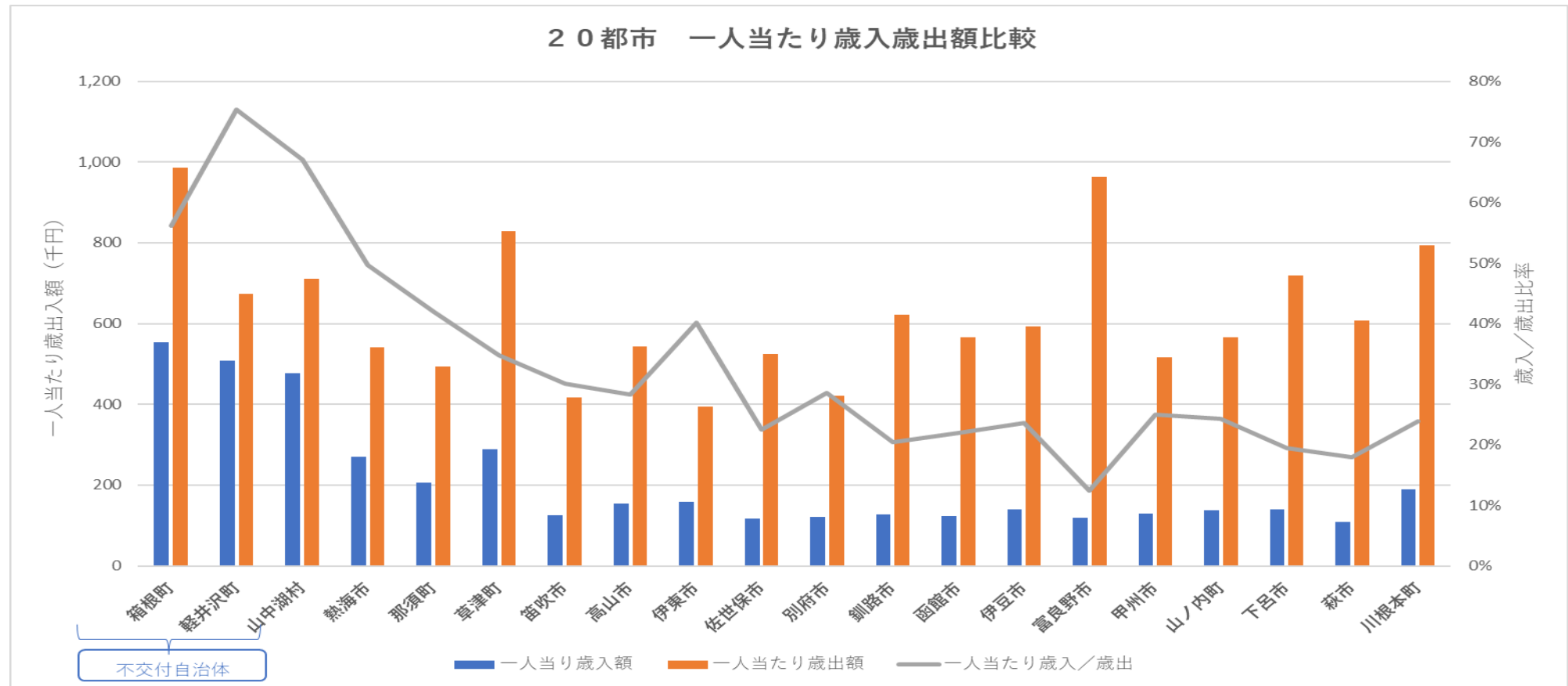
2. 箱根町の個別状況

(1) 歳入編

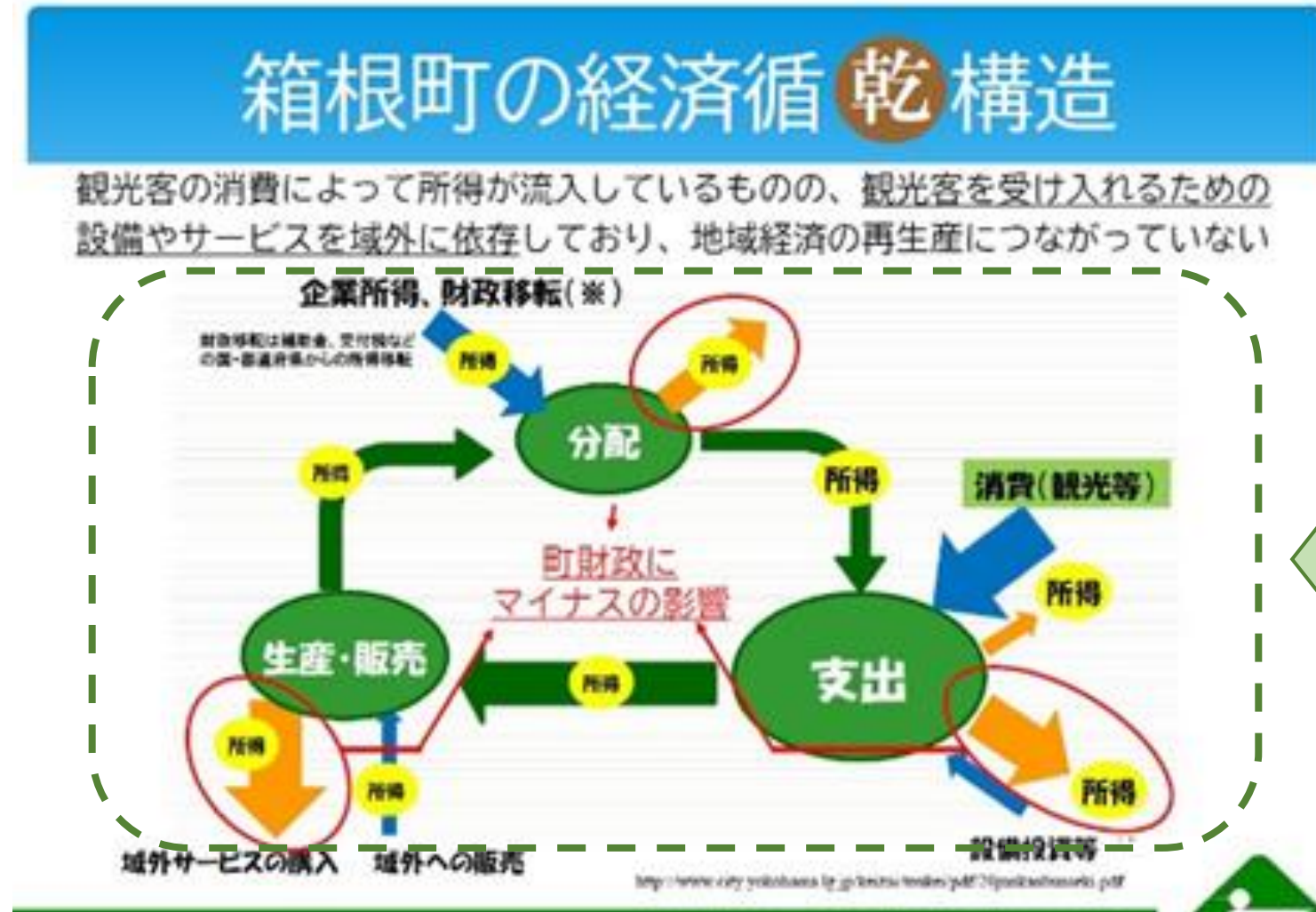
- ①固定資産税
- ②個人市民税

仮説 2 箱根町は税収の割に歳出が多い

- 相対的に歳出が多いため、財政状況が悪い。



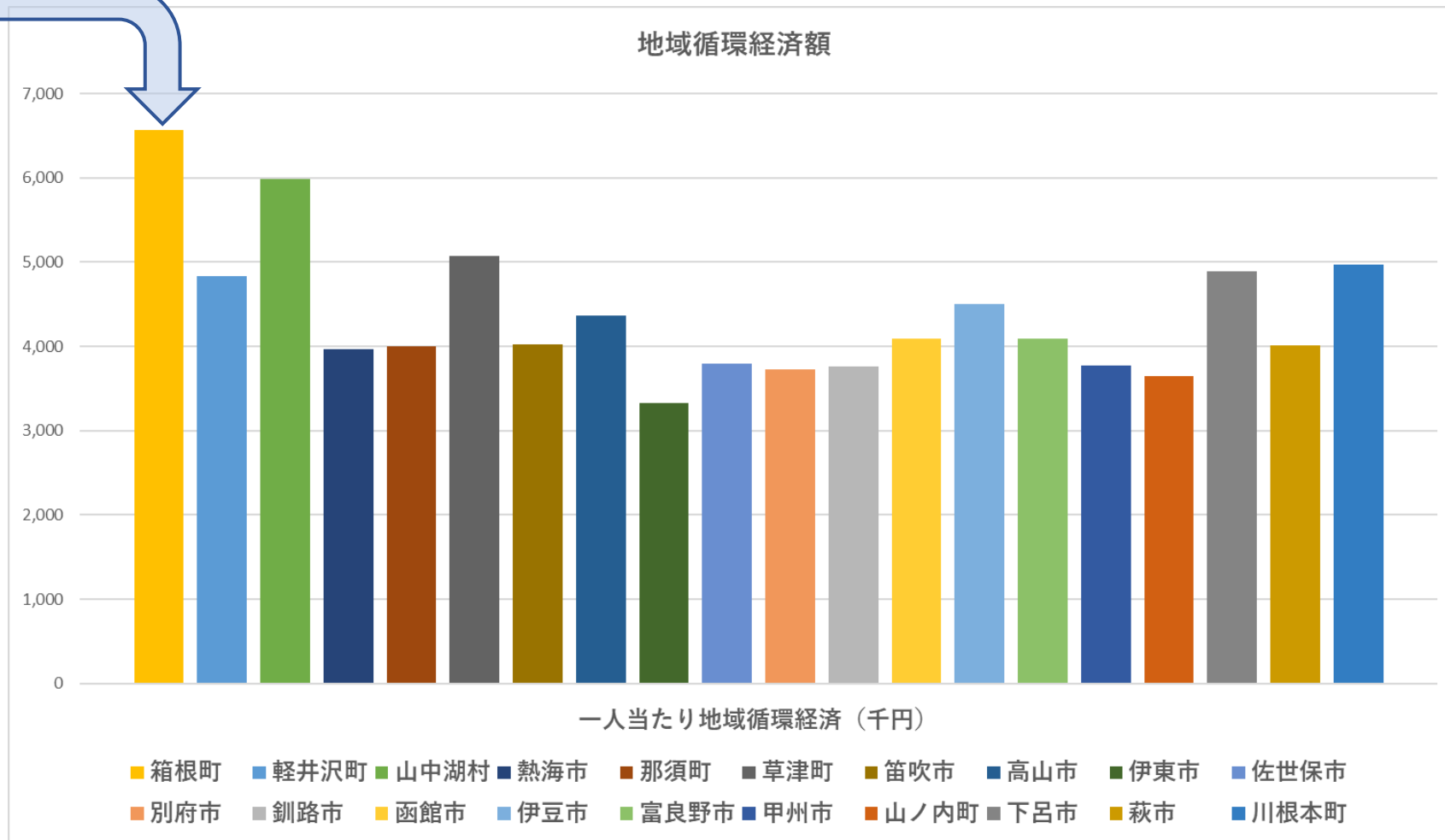
(1) ①固定資産税



全体から
ジワジワ
と取る！

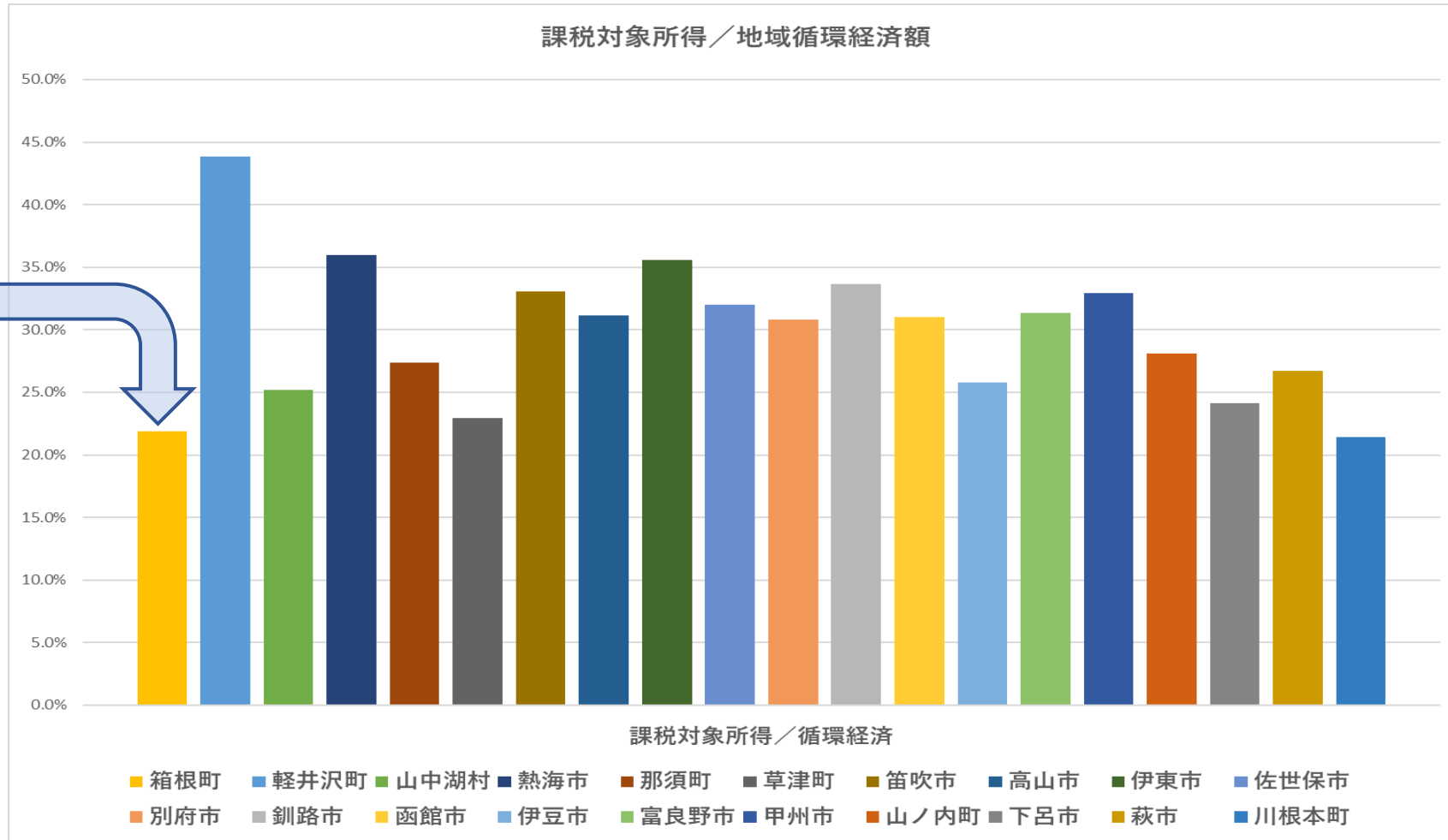
(1) ②-2 地域経済循環額は多い

地域内を
グルグル
回っている
お金は多い
のに

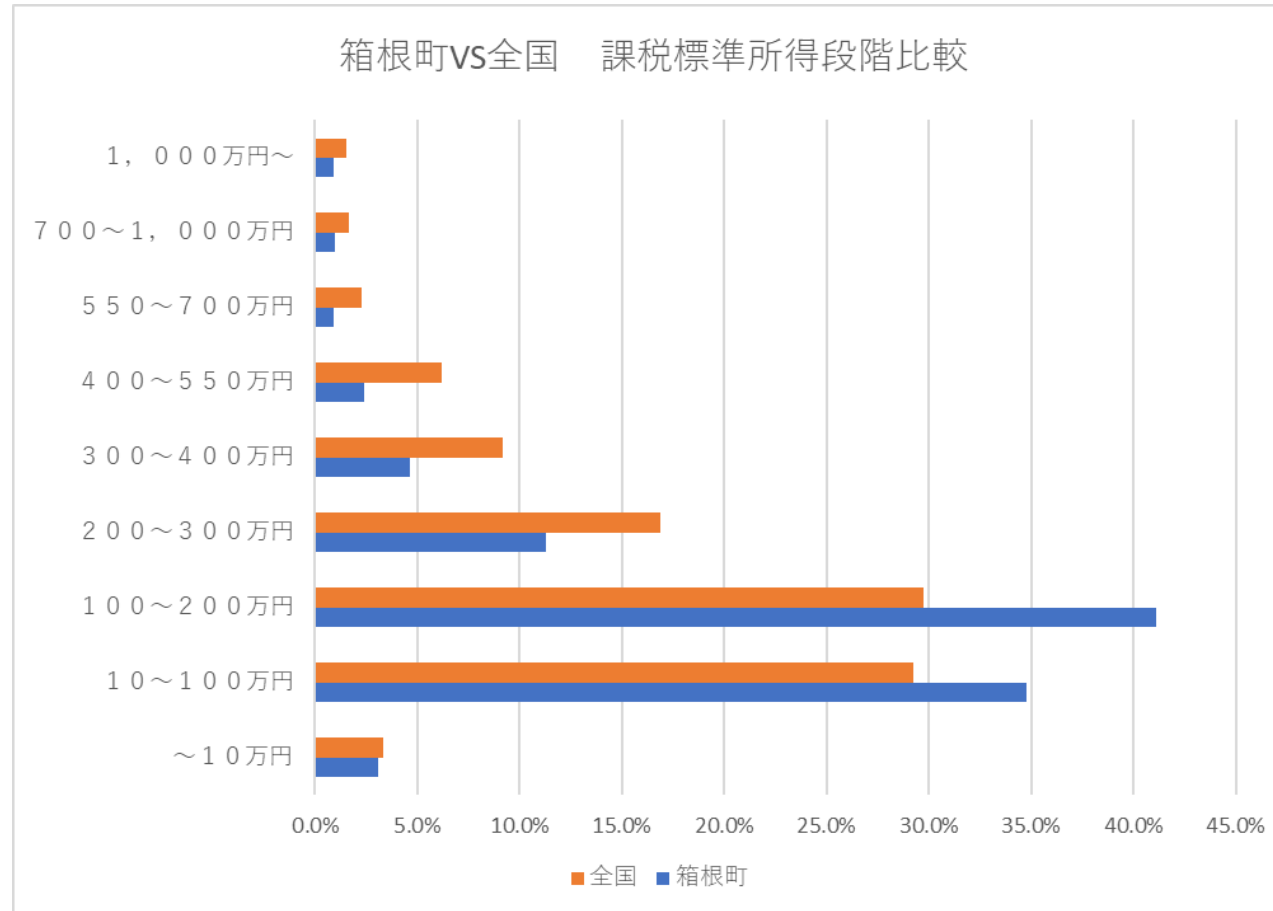


(1) ②-3 課税対象所得が少ない

役所がガバッと取れる率が圧倒的に低い



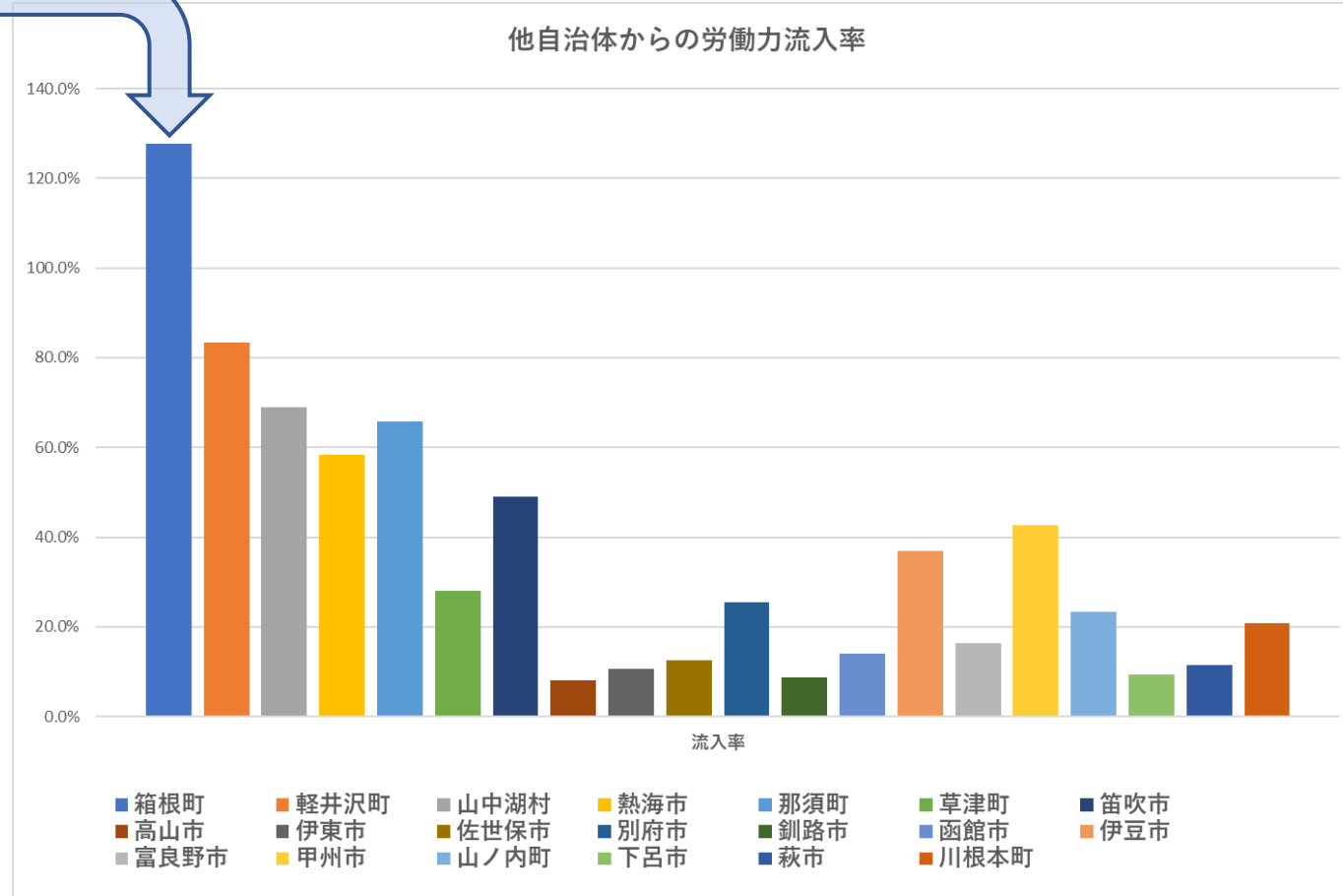
(1) ②-4 町民所得の問題



原因1：
町民の所得が相対的に低い

(1) ②-5 域外労働力の問題

原因2：
給料を域外へ持って行かれてしまっている

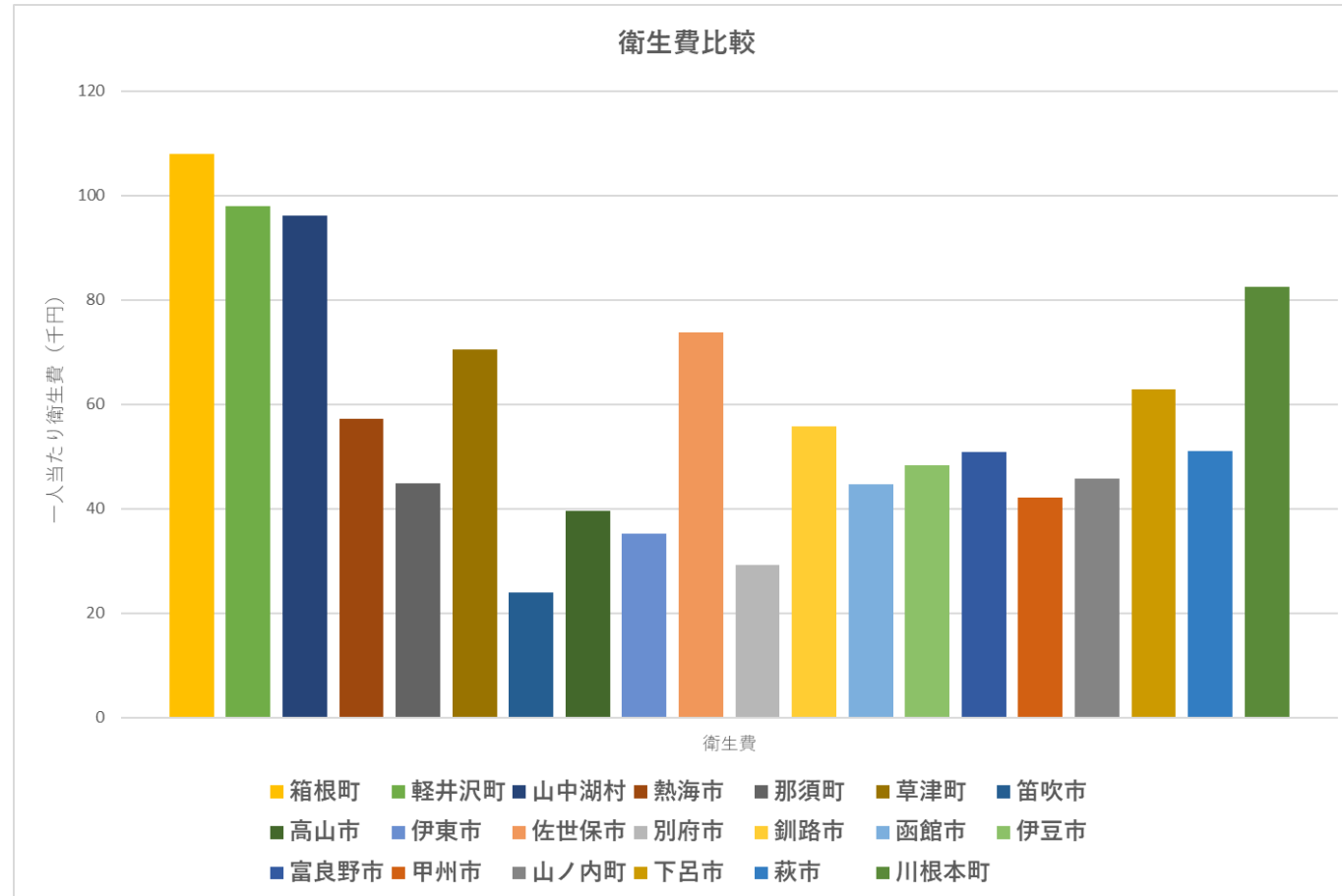


2. 箱根町の個別状況 (2) 歳出編

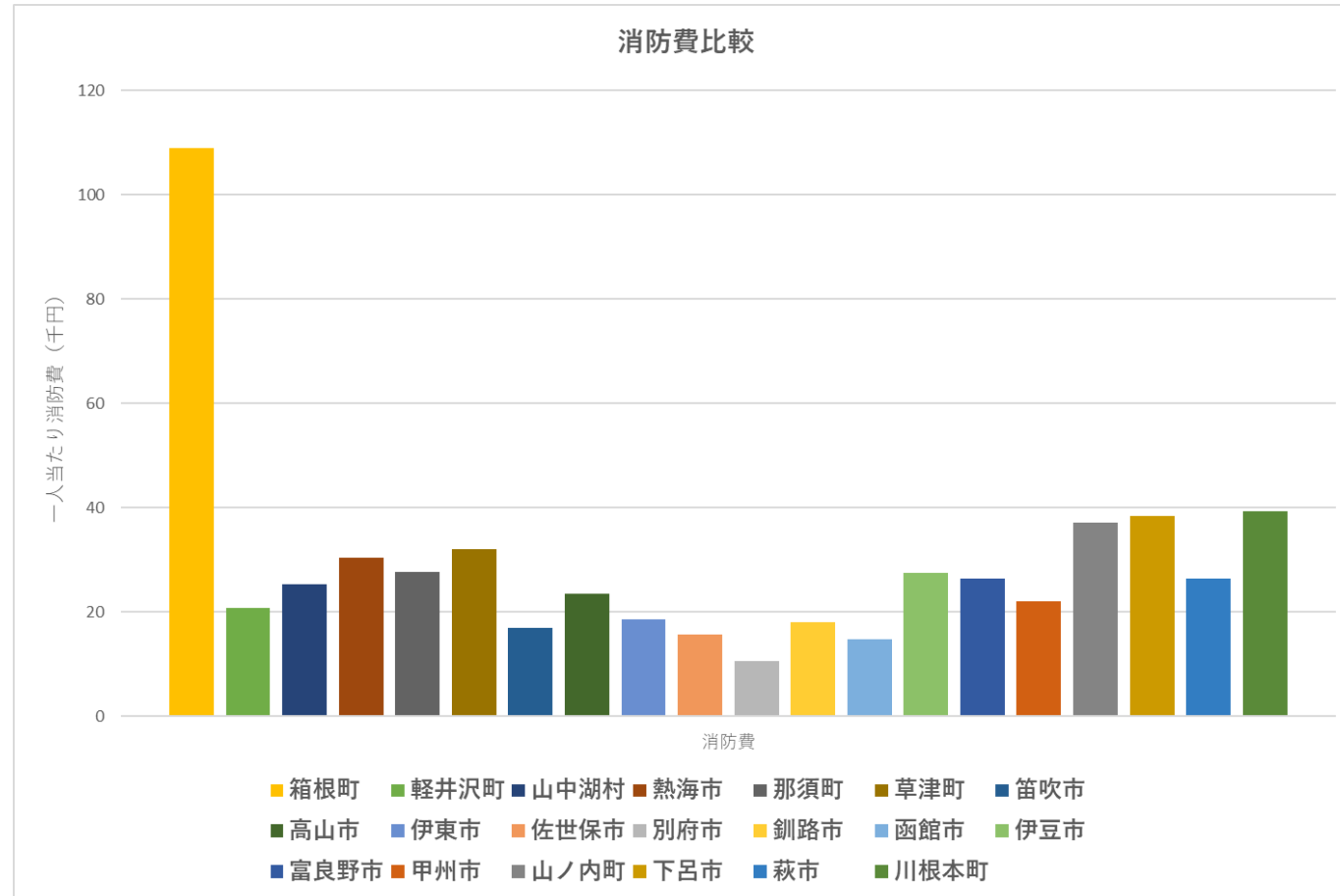
①衛生費

②消防費

(2) ①衛生費



(2) ②消防費



2. 箱根町の個別分析 わかったこと

仮説のとおり、税収力が低く、歳出が多い。

(1) 歳入編

- 固定資産税はその性質上、長期的に減ってはいるものの安定的に確保されている。
- 個人市民税は、一人当たりの所得額の低さと、域外流出の多さからたいへん低くなっている。

(2) 歳出編

- 衛生費や消防費が高いのが目立つ。ただし、20都市比較であったとおり、一人当たり観光客数にはほぼ比例している。

3. もしも～が軽井沢並だったら？

(1) 歳入編

- ①もしも住民所得が軽井沢並だったら？
- ②もしも域内労働率が軽井沢並だったら？
- ③もしも両方軽井沢並だったら？

(2) 歳出編

もしも一人当たり歳出額が軽井沢並だったら？

(無理に作ったけど、地形的要因もあるので無意味？)

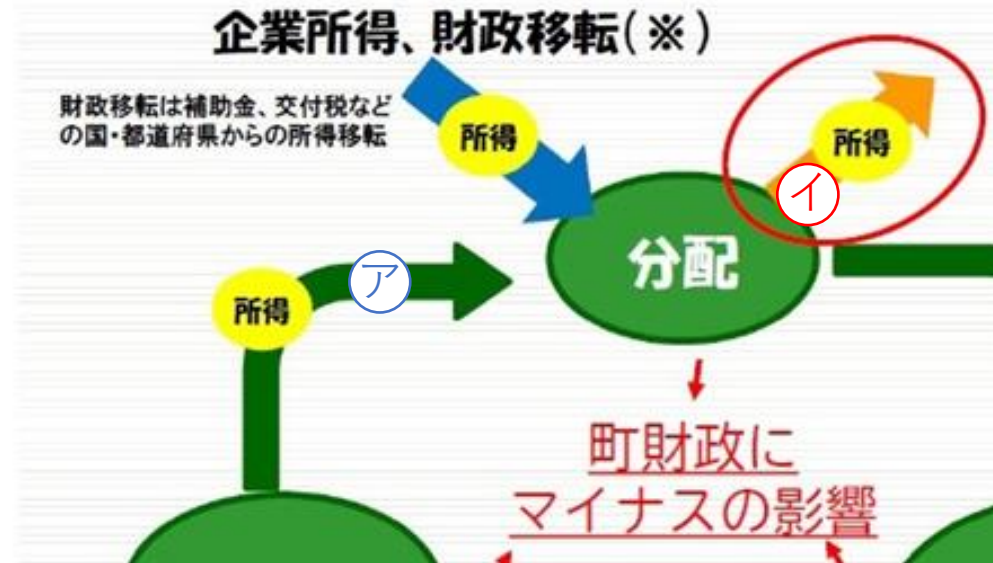
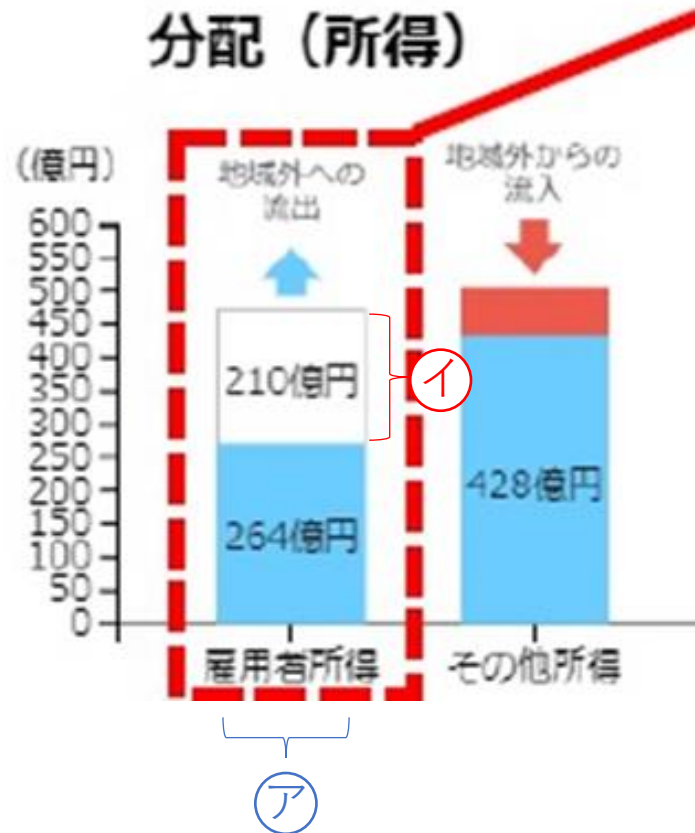
(3) 歳入出編

もしも歳入・歳出の両条件が軽井沢並だったら？

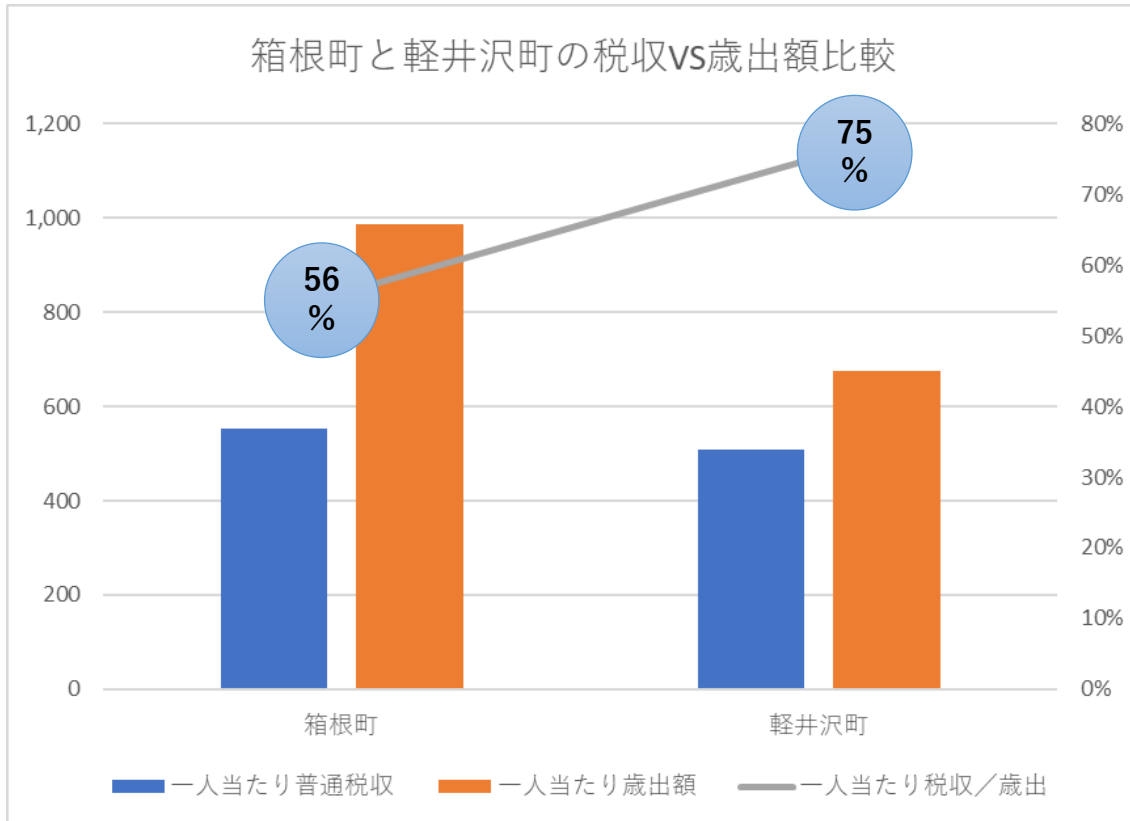
仮説3 「質」をライバルと同じにした ら？

- 税収力の「質」と歳出の「質」を優秀なライバルである軽井沢町並とすれば、箱根町の財政状況は改善する。

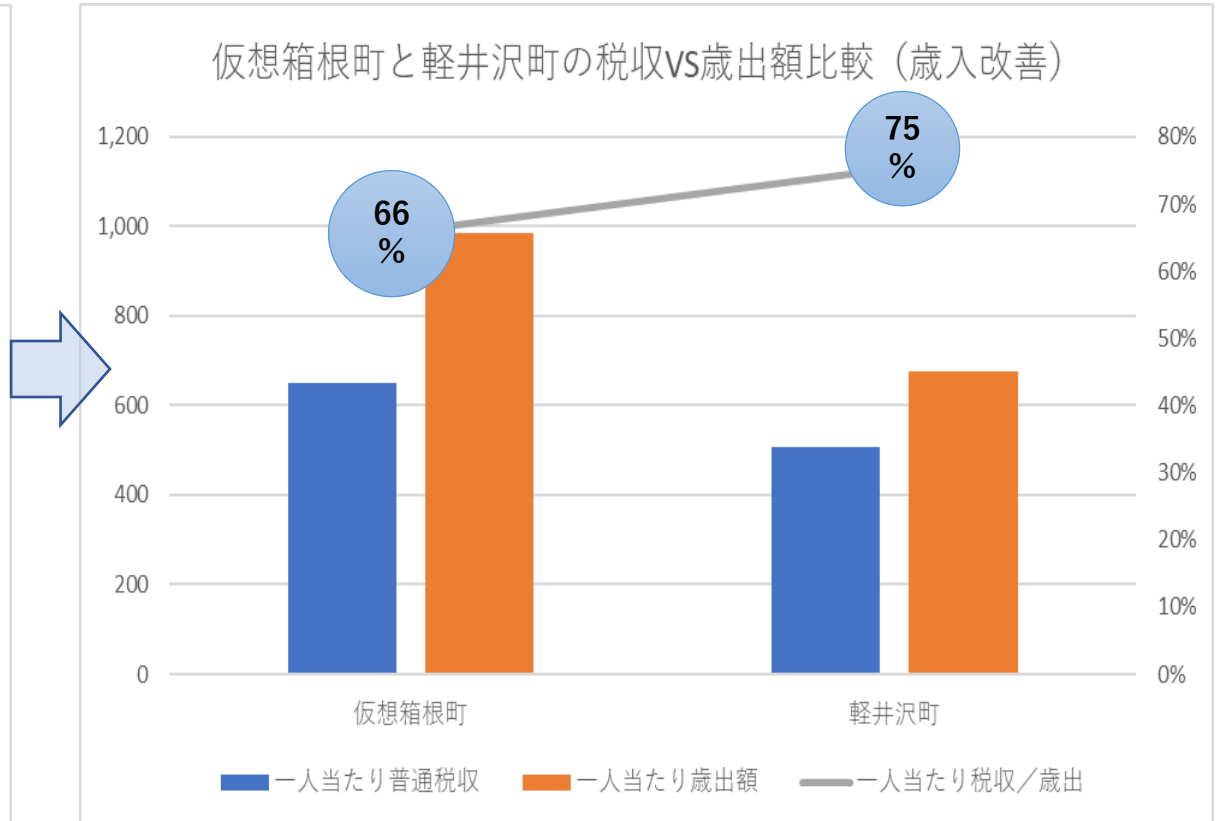
(1) ①もしも住民所得②と
域内労働率③が軽井沢並だったら？



(1) ②もしも歳入の住民所得^アと 域内労働率^イが軽井沢並だったら？



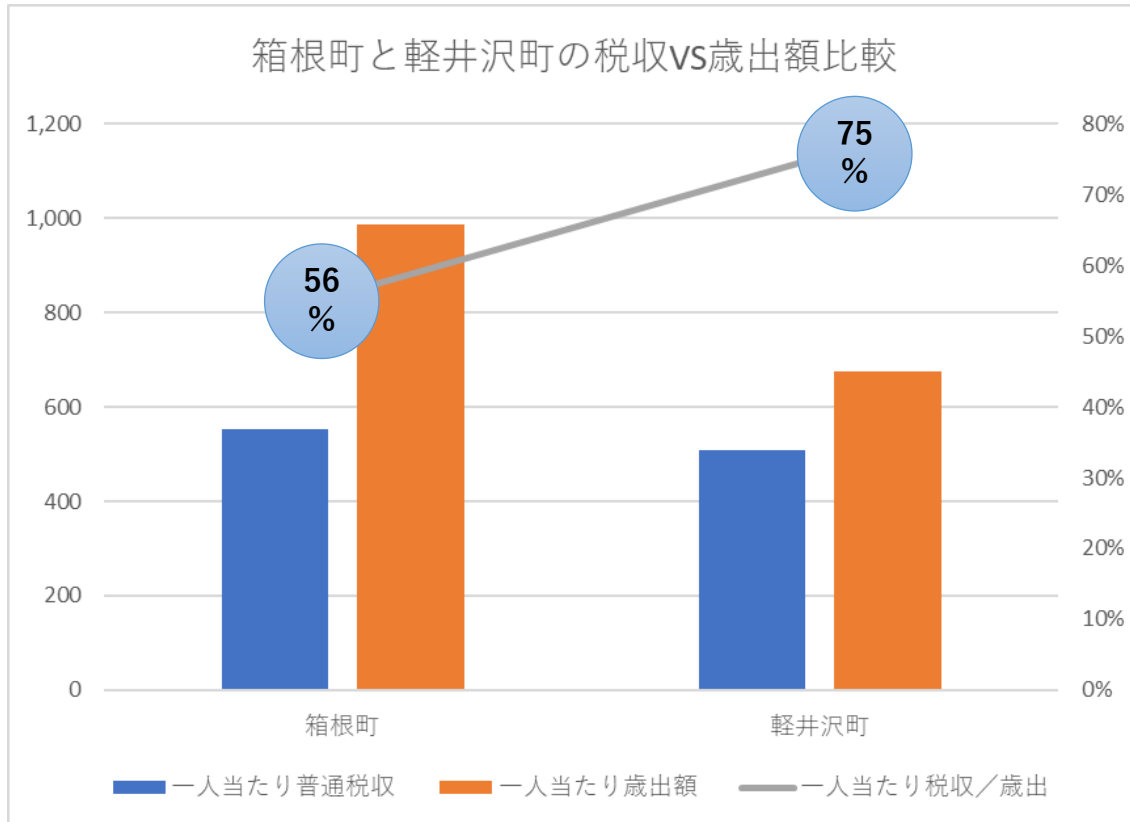
現実



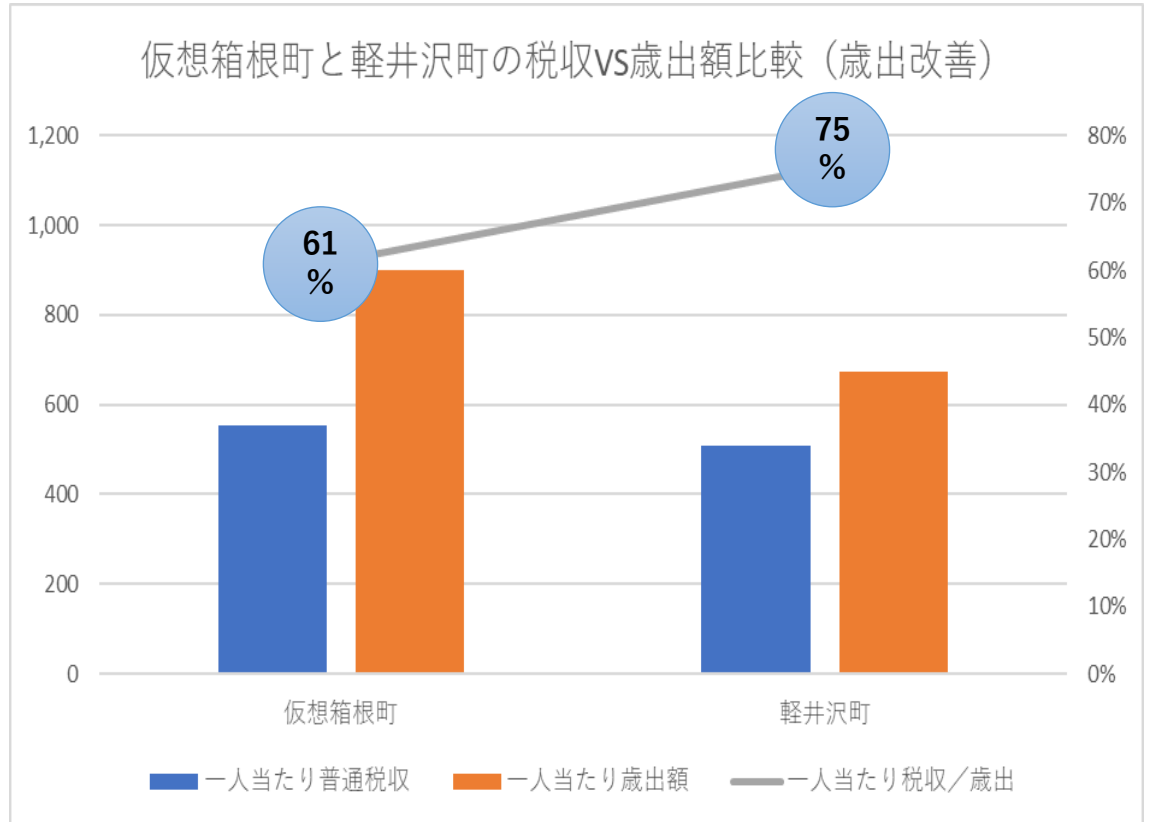
かなり改善！

仮想値

(2) もしも一人当たり歳出額が軽井沢並だったら？

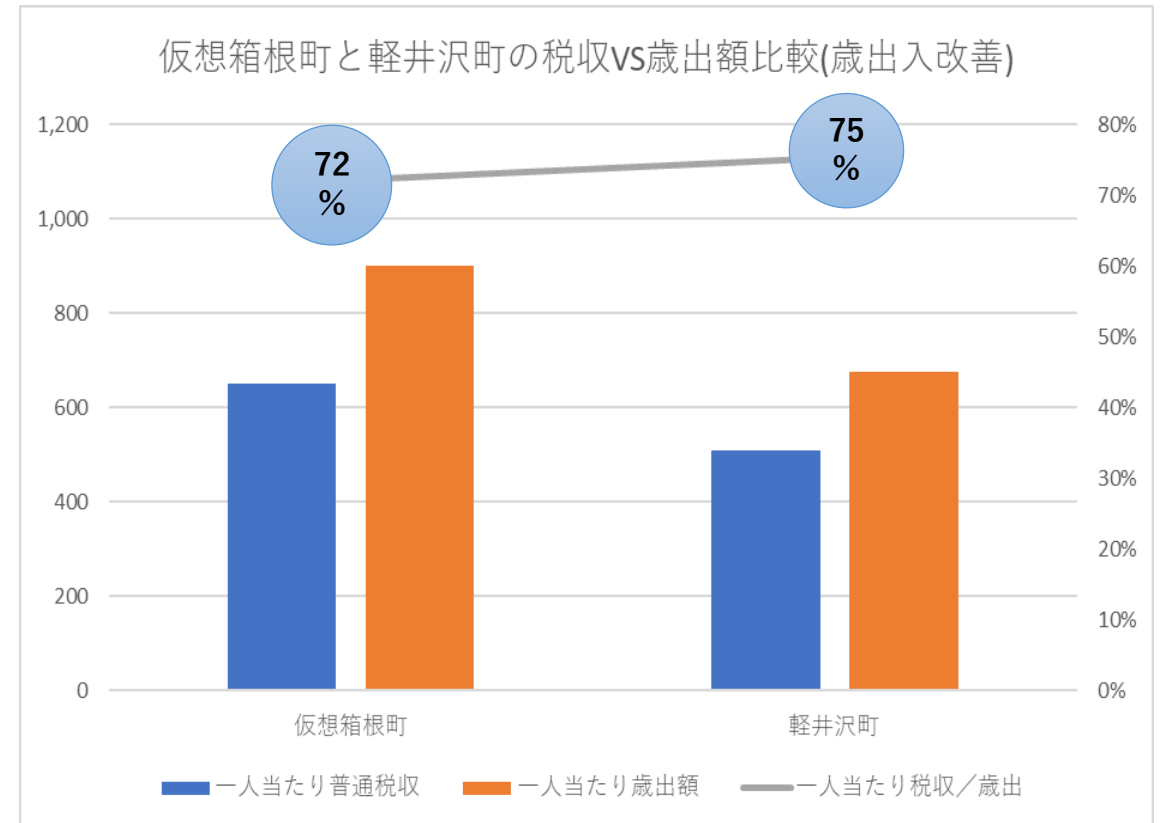
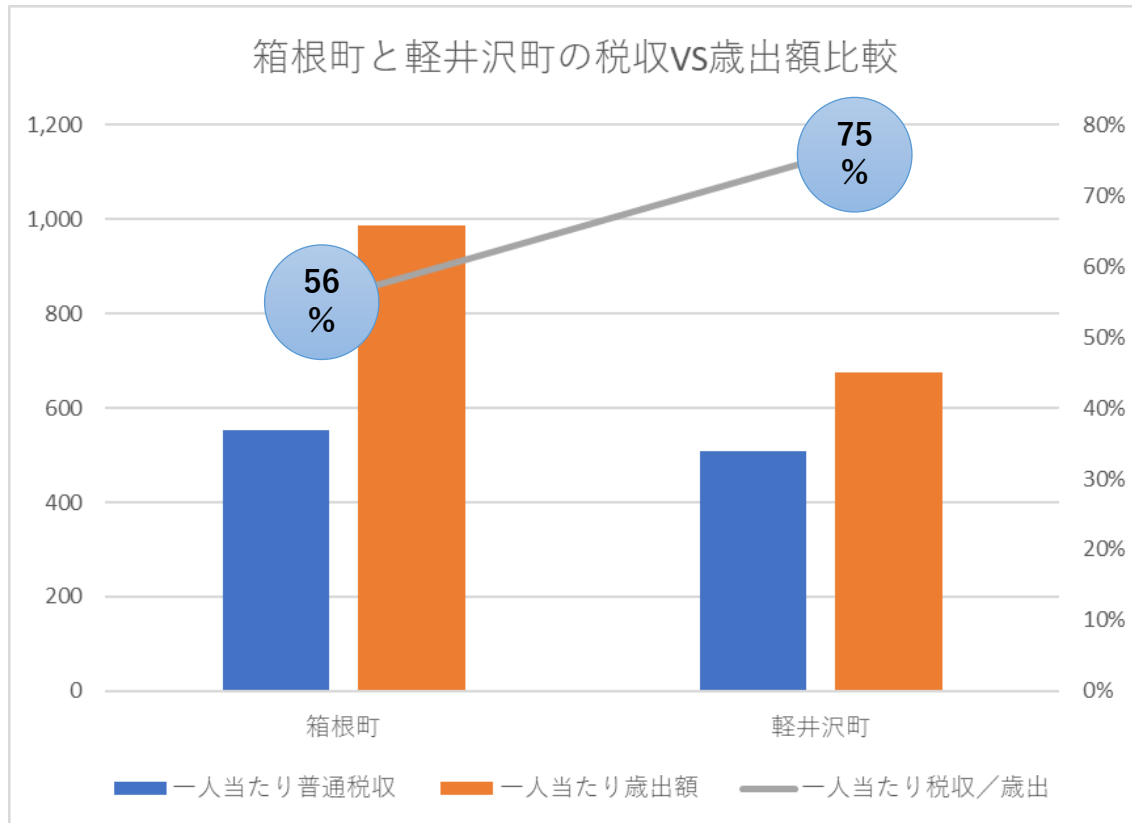


現実



仮想値

(3) もしも歳入歳出どちらも軽井沢並 だったら？



現実

ほぼ同レベルに！

仮想値

3. もしも～が軽井沢並だったら？ わかったこと

仮説の通り、「質」を軽井沢町並にすれば状況は改善する。とはいえ、(2)と(3)は実現困難であり、(1)が現実的。

(1) 歳入編

- 個人市民税の状況を軽井沢町並すると、歳入は格段に強化される。

(2) 歳出編

- 市民一人当たりの衛生費や消防費を軽井沢町並とすると、歳出は多少改善される。しかし、地形など外的要件が大きいので、実際に改善できる余地は少ない。

(3) 歳入出編

- 仮に歳入の個人市民税の条件と歳出の「質」を軽井沢並とすると、「量」を変えなくても財政状況はほぼ同じになる。

4. まとめ

- まとめ

箱根町の歳入における課題は、個人法人市民税といった地域経済からの直接的な税収が少ないこと。よって、個人所得額の増加と域外労働者の減少により個人市民税収を増加させることが重要となる。

もしくは、地域経済から直接徴収できる別の税目を考案する方法もあるかもしれない。

歳出の多さも特徴であるが、観光客の多さと比例しているのでやむを得ない。

参考資料

- 環境省「地域経済循環分析」
- 内閣府「e - S t a t」
- 総務省「財政状況資料集」
- 箱根町企画観光部企画課「観光まちづくりについて」
- 第1回新財源確保有識者会議「箱根町の財政状況」